

＜テーマ＞算数科の授業の流れをパターン化し、主体的な学びを向上させる取組（2）

（加美町立賀美石小学校）

※授業の流れと共に、それぞれの段階で意識したいことを研究の視点と合わせて明確に示します。

はじめ

- 今日の課題を明確に示す。子どもたちと一緒に確認する。
- 何をするのか、どのようにするのか、大まかな流れが分かるように示す。
- 既習事項を確認する。（内容は関連があるはずです。）
〈学習コーナーを活用します。学習コーナーは生き物です。意識してコーナーづくりに取り組みましょう。〉



なか

- ノートをしっかりと書かせる。（そのためには板書が大切です。計画的に板書したいものです。）
- ペアやグループで話し合うなど、生き生きと動きのある授業を意識する。
- 授業の流れを確かめる。課題はぶれないように、方向修正をしながら授業展開をする。〈そのためにも、一時間の流れを示すと迷わずにできます。〉



おわり

- できたこと、分かったことを明確にするために、関連問題に取り組ませる。
- できたこと、分かったこと、分からなかったことなど今日の振り返りをしっかりとさせる。文章で書いたり、言葉で話させたりして確認。（今日の課題・めあてをもとにして、学習を振り返ることを忘れずに。楽しかったです・・・は反省ではありません。）
- 宿題や課題を出して、定着を図る。



【学習活動の工夫】を意識しましょう。

- ・ 単元の流れを知らせ、見通しや目標をもたせる。
- ・ 意図的指名による考える場の工夫（書く→考える→意見を聞く→気づく・比較する→確かめる→深める）
- ・ 学びを確認できる学習過程の工夫
- ・ 学びの内容に合わせた思考の場の設定（自己の考えをもつ→ペアで話し合う→グループで話し合う→全体で深める・確かめる→個々の理解へつなげる）
- ・ 意図的な指名による考える場の設定
- ・ 学びの内容に合わせた思考の場・考えを深める、類型化した学習スタイル
- ・ 目的を明確にした学習活動
- ・ 本時の活動を確認するためのワークシートの工夫



児童の6年間の学びを支えるためにも、先生方が同じ観点・同じ手立てでしっかりと指導していくことが重要であると考えます。担任が変わっても、基本的な指導が徹底され、変わらずに指導できることをめざしていきます。